



## 理数研究校

## 海外学校間交流推進校

都立小笠原高等学校長 小島 智史



4月に東京都立東大和高等学校から着任いたしました校長の小島智史です。

小笠原の将来を担う高校生をお預かりする責任を感じると共に魅力溢れる小笠原に赴任できたことへのワクワク感がいっぱいでもあります。

今年度が始まり1ヶ月が過ぎましたが、皆さんは何かをスタートさせることが出来ましたか？気が付いたら昨年とあまり変わってないなんてことはないですか？高校生活は、「大人になる」ための最後の準備期間といえます。なんとなく過ごすではもったいないです。特に高校生活で大切にしてほしいのは、「考える力」「自分の意見を表現する力」「仲間と協力する力」です。そして、答えのない問いにも向き合い、自分なりに考え、行動し、学び続ける姿勢です。たとえば「なぜそれが起きたのか？」「自分ならどうするか？」という問いを、自分自身に投げかけてみてください。正解は一つではありません。でも、考え続けることにこそ、意味があります。このことは、学習ではありません。まもなく開催されるビード祭や部活動、アルバイトでも同じです。なんとなくではなく、色々なことに興味関心を広げてみましょう。

皆さんの可能性は無限大です。そんな皆さんを先生方と一緒に応援していきたいと思えます。校長室にもぜひお話をしに来てください。小笠原のことをたくさん教えてください。お待ちしております。

### 教務部より

4月8日、気持ちの良い青空が広がるなか、無事に新入生16名を迎え、生徒53名で新年度がスタートしました。

今年度も小笠原高等学校教務部は、できる限り生徒のニーズに対応するきめ細やかなカリキュラムマネジメントを実践していきます。本校の教員一同、一生懸命勉強し、目標に向かって

一步一步前進していく生徒のみなさんを心から応援しています。普段、生徒たちを近くで見守ってくださっている保護者の方々や地域のみなさまにおかれましても、新しいことを学ぼうとする生徒の背中を押していただけると幸いです。

さて、今年度入学生から、教育課程が変更となります。主な変更点としましては、様々な進路希望に合わせて新たな選択科目を設置したこ

とや、調査・研究活動を充実させることで多様化する入試制度へ対応できるように、総合的な探究の時間を1年から3年まで設定したことが挙げられます。小笠原高等学校教務部としては、ここから3年間の彼らの学びの達成度などをよく分析し、より良い教育課程の編成に向けて引き続き検討を重ねてまいります。

最後になりますが、今年度もみなさまのご協力を得ながら、精進してまいりますので、1年間よろしくお願いたします。



入学式

## 生活指導部より

始業式に生活指導部からは、「頑張る」ことについて話をしました。高校生にしかできないことに熱量を注ぎ、一生懸命頑張ることがとても大切です。

仲間とともに作り上げるビーデ祭などの「学校行事」や、大会や発表のために多くの時間を費やして練習に取り組む「部活動」などはこの3年間でしか経験ができないかけがえのない

「青春」です。何もせずに誰かがやってくれていることにぶら下がり過ぎて過ごすだけの三年間は非常にもったいないです。貴重なこの青春時代



対面式

を一秒も無駄がないよう駆け抜けてください。

生活指導部は生徒が健全に学習活動に取り組めるよう全力で向き合い、指導してまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、本校と共に生徒を温かく、時に厳しく、愛情をもって御指導いただきますようお願い申し上げます。

## 進路指導部より

小笠原高等学校進路指導部では三年間の高校教育を通して、将来の人生計画に基づいた進路選択を決定できる力を育てるために必要なキャリア教育を実施していくことを目指しております。そこでまず、高校1年生の時から卒業後の進路を考える必要性についてお話させていただきます。中学校に入学した時には、すぐに中学校卒業後の進路について考えることはしなかったと思います。しかし高校では、1年生の一学期から卒業後の進路についてガイダンスを行います。これは、高校卒業後の進路選択肢の数が、中学校卒業後のそれに比べ桁違いに多いためです。それだけの数の選択肢から選ぶには、情報収集と比較検討に膨大な時間が必要です。また、例えば進学希望であれば、志望校を決めて終わりではなく、合格のための受験勉強、志望理由書作成や面接練習、小論文練習など、すべてに時間が必要です。そのため、本校の進路指導部では、2年生の夏休みの終わりまでには志望校を決定できるように動いてほしいと伝えています。志望校決定には、進路指導部で企画・実施している、1,2年生対象の教員引率による内地での「夏季上級学校訪問」をぜひ活用して下さい。訪問希望校アンケートが5月初旬締切となっております。夏のご予定の調整をよろしくお願いたします。

## 学年部より

### 第1学年

高校生活がスタートし、一週間がたちました。どのような3年間を過ごすか、部活や進路についての選択が始まります。おが高の先輩や教員はもちろん、島民の方々など日ごろから周りを見て行動し、将来へのあらゆる可能性を広げてほしいと思います。ご家庭の中で不安ごとなどございましたら、ぜひご相談ください。

## 第2学年

持ち上がりで2学年の担任をもつことになりました。加藤です。人数が少ない学年ですが一人一人にパワフルさを感じています。小笠原赴任も3年目になりました。村内のいろいろなイベントや学習会に足を運んでいますので何か面白い情報あれば教えていただくと幸いです。生徒たちの高校生活が充実したものとなるようにサポートしていきます。保護者の皆さま、島民の皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

## 第3学年

あつという間に最高学年となりました。第3学年の目標は何と言っても進路実現です。大学や専門学校、就職希望など、十人十色なそれぞれの進路を教職員全体で支えたいと思います。不透明な自分の人生を真正面から考える苦しい1年間になる、そんな生徒もいるかもしれませんが、どんな道を選んでも、頑張る生徒をぜひ温かく支えてください。

## 新たに着任した教職員より

○桐川 龍馬 (地理歴史科)  
(前所属 都立深沢高等学校)

今年度より、小笠原高校に赴任いたしました地理・歴史科の桐川龍馬(きりかわ りょうま)と申します。私自身幼少期を、小笠原で過ごした経験があります。またこうして高校教員として小笠原の教育に携わり、貢献できることをとても嬉しく思っています。生徒の心身の成長を支え、信頼されるように日々頑張っていきたいと思えます。また、島のイベントや行事にも積極的に参加させていただきたいと考えています。島民の皆様とも様々な場面でたくさん交流させていただき、改めて小笠原の魅力などについて教えていただければと思っています。これからよろしくお願いいたします。

○ミヤ スルターンムハンマド (家庭科)  
(新規採用)

家庭科を担当させていただきます。ミヤ スルターンムハンマドと申します。ハーフかつ男性の家庭科教員という私の存在感が消し飛ばくらい「世界自然遺産 小笠原諸島」はとてつも

ないインパクトがあります。もともと島に行きたいという希望を強く持っていたので、この島に来ることができてうれしい気持ちでいっぱいでした。美しすぎる海、ゴリゴリの山々、皮膚を貫く太陽、そしてここでしか見ることのできない動植物に囲まれた生活は家庭科教員としての能力を最大限まで伸ばすことのできる素晴らしい環境です。余りある自然の中できちんと栄養を補給しながら体力の向上に努め、強くたくましいフィジカルを手に入れられるように力をつけて生徒の模範となる教員を目指していきます。どうぞこれからよろしくお願いいたします。

○鈴木 友枝 (音楽科)  
(新規採用 時間講師)

音楽科時間講師の鈴木友枝(すずき ともえ)と申します。この度はご縁があつて、小笠原高校の時間講師に赴任させて頂く事となりました。人も自然も個性豊かな土地ですが、自然と文化に恵まれ、学校環境は充分整っていますし、先生方も生徒たちも人柄が良く、私の方が学ばせていただく事ばかりです。小笠原独自の文化を交えた音楽の授業に貢献していきたいと考えています。又、音楽の授業以外にも、T.Tとして数学、生物、体育の授業にも参加させて頂く事となりました。

宜しく申し上げます。

○宇野 佳那子 (経営企画室)  
(前所属 産業労働局)

経営企画室の宇野と申します。他局からの異動で、学校での勤務は初めてとなります。島しょ地域での勤務に長年憧れを抱いていましたが、その夢を小笠原で叶えることができ、とても嬉しく思っています。仕事も住環境も一変し、慣れない環境に気持ちが落ち込むこともありましたが、驚くほどの青い海や雄大な自然に癒されました。これから少しずつ島暮らしを満喫したいと思っています。

事務方として学校経営に参画し、生徒や保護者の方々、地域の方々と積極的に関わっていききたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

○小林 春香（経営企画室）  
（新規採用）

4月より小笠原高校経営企画室に赴任してきました。新規採用職員の小林春香と申します。小笠原は今まで二度観光で訪れていたこともあり、都の職員になったらいつか働いてみたいとずっと思っておりましたので、希望がかなってとても嬉しいです。

4月はすべてがはじめてで、覚えることが多くいっぱいいっぱいでした。まだわからないことがたくさんありますが、一つひとつ覚えて吸収していきたいです。滞りなく業務を遂行し、皆さんの学校生活が豊かになるように尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 離任した教職員より

○西村 伸二（校長）  
（ご退職）

おが高生の皆さん、元気にしていますか。小笠原を後にして早一月半が経ちました。改めて二度目の赴任となった二年間を振り返ってみると、一回目の赴任時に決意したグアムとの国際交流に全てを注力してきた二年間だったなあと思います。道半ばではありますが、第一歩を踏み出せたことを誇りに思っています。これからは、生徒会の皆さんを始め、多くの生徒諸君がジョージ・ワシントン・ハイスクールの皆さんとあらゆる課題を共有し、解決に向けた手立てを模索していったほしいと願っています。

二見湾に掛かる虹が G.W.H との架け橋となりますように！

○田中 大成（地理歴史科）  
（新所属 都立狛江高等学校）

小笠原高校のみなさん、3年間本当にありがとうございました。

小笠原での経験は、当然ながら私の人生において今までにない刺激的なものでした。きれいな海・温暖な気候・熱帯の植物はもちろん、個性豊かな村の人たちも私の生活に近いものではなかったもので、とても勉強になりました。

した。

生徒のみなさん、お元気でしょうか。みなさんとの授業を思い返して、「やりたい放題めちゃくちゃな授業をしてしまったな…」と少し反省しています。私が授業で伝えたことの中から、なにか一つでも心に留めて成長していったらとても嬉しいです。これからも頑張ってください。

先生方、本当にお世話になりました。令和7年度は職員室がさらに若返り、エネルギーに溢れていることと思います。みなさんの力で学校のすべてがうまくいくことを遠い内地から願っております。

改めて、本当にありがとうございました。またいつかどこかでみなさんに会えるのを楽しみにしています。

○金井 洋子（家庭科）  
（新所属 都立八潮高等学校）

小笠原高校の生徒のみなさん、1年間ありがとうございました。

父島のことを何も知らない私に、ちょっとした島情報や動植物のことをレクチャーしていただいたことは、とても助かりましたし勉強になりました。と同時に生徒と話すそんな何気ない会話はとても楽しい時間であり、よき思い出です。節度を持ちながらもフランクに話してくれるおが高生、私のこの1年を彩り豊かなものにしていただいたおが高生には感謝でいっぱいです。まだまだ成長途中のみなさんは、この先こういう人間になりたいという目標があるかもしれません。それはとてもいいことですが、みなさんはそのまま十分魅力的です。私はそのままのみなさんが大好きです。どうぞ今のままの魅力を無くさずに、今後の人生を謳歌してください。いつまでも応援しています。

○中野 ちひろ（音楽科）  
（ご退職 時間講師）

小笠原高校の皆さん、お久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか？私はようやく新生活にも慣れて、京都でも元気にやっています。

環境が変わって改めて、小笠原での2年間は特別だったなと実感しています。音楽の授業やウィンドサーフィン、ビーデ祭や予餞会など、先生方や生徒の皆さんと過ごした時間がとても懐かしいです。教員として、人間として、成長できた2年間だったなと思います。またいつか、小笠原で出会った皆さんと笑って話せる日がくることを楽しみにしています。それまでは大学院での研究を頑張ろうと思います！

○白倉 佐知 (経営企画室)  
(新所属 都立中野特別支援学校)

3年間、公私ともにお世話になりました。父島にいる間も、ふとした時に「なんで自分はここにいるんだろう」と感じることもありましたが、今も「あの3年間はなんだったんだろう」と不思議な感覚に陥ることがあります。以前も今も間違いなく現実に違いありませんが、変化の多い人生で、個性豊かな出会いに恵まれ、感情が揺さぶられる経験をさせていただいたこと、感謝いたします。

～いつも心に小笠原を～またどこかで

○奥村 健太郎 (経営企画室)  
(新所属 建設局)

小笠原高校を離れ、早数か月が経とうとしています。内地での生活は3年ぶりになりますが、久しぶりに満員電車の洗礼を受け、海を眺めていた生活が懐かしく感じる今日この頃です。

慌ただしい日々ですが、今の職場でも少し小笠原に関係する業務を担当しています。また小笠原に携われること、小笠原に赴任していたからこそ得ることのできた知見を発揮することができたことにとっても喜びを感じています。いつかそれが実を結び、小笠原の魅力を多くの人に伝えられる日まで頑張りたいと思います。

皆様にもぜひまた会える時を楽しみにしています。

令和7年度生徒在籍状況(4月8日現在)

|    | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|----|
| 男子 | 10  | 5   | 12  | 27 |
| 女子 | 6   | 7   | 13  | 26 |
| 合計 | 16  | 12  | 25  | 53 |

【お問い合わせ先】

東京都立小笠原高等学校  
副校長 安富 良貴  
〒100-2101  
東京都小笠原村父島字清瀬  
TEL 04998(2)2346